

## 2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007 年 1 月 25 日

## I 概要

実践団体・担当者名	WASEND 早大防災教育支援会（担当者：北島功）	
連絡先	東京都新宿区大久保 3-4-1 58-203	TEL:03-5286-3147
プランタイトル	WASEND の楽しい防災教育活動	
目的	小中学生に防災を馴染みやすく伝える 様々な地域で出前授業をすると同時に、早稲田の街で防災を通して理工学部の学生と地域の方々が結びつくことで地域力の向上に貢献できる活動を行う。	
プランの概略	<p>①防災教育出前教室 子供たちに楽しく防災について考えてもらうため、理系の学生が中心の WASEND は、災害時の身の守り方だけでなく、災害が発生するメカニズムや技術対策についても面白くそして楽しく学習できるように活動を行う。月1回の活動を継続的に行う。</p> <p>②インドネシアでの防災教育活動 インドネシアでの活動を通して、現地の学生による防災教育活動と、それに伴うインドネシアでの防災教育のシステムとネットワークの構築。</p> <p>③早稲田のまちと理工学部の一体感の強化 早稲田において遠い存在にある理工学部の学生が、まちのなかに入り込んで活動することにより、防災を通じて理工学部とまちの距離を近づけ活性化を促すとともに、地域に防災の意識付けを目指す。</p>	
プランの対象と参加人数	小中学生 総計：6650 人（インドネシア 5500、日本 1150 人）程度	
実施日時	通年	
主な実施場所	連携した団体にとって活動を行いやすい場所をそれぞれ選定	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	あり
	連携した団体名	京大防災教育の会、まっちワーク、大阪外国語大学アチェ支援会、KOGAMI、UGM、災害救援ボランティア、セーフティリーダー学生ネット、SPUTNIK、セーバース株式会社、国境なき技師団、理工学部リエゾンオフィス、立教大学、早稲田大学、
	連携したきっかけ・理由	学生同士のつながりをきっかけに、お互いサポートしながら活動を行うため。防災の輪をさらに広げ、各地で防災活動を継続させるため。
	連携団体へのアプローチ方法	HP からメールを送る。 または学生同士のつながりを利用する。 出会いから広げる。
	連携団体との打合せ回数	活動によって様々。 活動方針から事前準備まで必要に応じて。
	連携団体との役割分担	活動によって様々。 打ち合わせ時に話し合う。

## Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	0 名
	主なメンバーの 役職・役割	塚澤幸子 北島功 川口大輔 加藤一紀
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005 年 12 月～
	立案時間	特に意識したことはない。1 年間自分達に出来ることを話し合 い続けた。
	上記のうち打合せ回数	
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	学生らしさを表現する いかに子供達に興味を持ってもらい、普段から防災についての意識をもってもらえるかに重点 をおいた。	
プラン立案で 苦労した点	インドネシアと早稲田での活動を軸にして各地での防災活動に励むことを目指したが、活動が 単発化しないようにどのようなケアをしていくか、活動毎に検討した。 防災というものが子供達の視点から見て楽しく、普段から簡単自分達でも実践できると思える ように伝えるのが大変だった。	

## Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	20 名
	外部スタッフの総人数	多数名。連携グループのスタッフ。
	主なメンバーの 役職・役割	塚澤幸子 北島功 川口大輔 叶明子 加藤一紀 稲垣嘉彦 増子泰亮
準備に要した日 数・時間	準備期間	各々の活動において 1 月程度。 インドネシアでの活動に対しては 3 ヶ月以上。
	準備総時間	各々の活動に対して 1 年間常に準備作業を行っていた。また PPT などの教材作りや授業の進め方について、連携団体と打 ち合わせ行った。
	上記の内打合せ回数	複数回

教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	東京都江戸川区立葛西中学校篠田先生、堀越高校大浦先生内藤先生、大分県大分市立西の代小学校金子先生、東京都八王子市立恩方中学校竹本先生、東京都大田区立開桜小学校清水さん、兵庫県立舞子高校諏訪先生、東北福祉大学渡辺さん、小坂さん、戸塚第一小学校久保さん、川崎氏教育委員会杉本さん、神戸市立渚中学校他。
	どのように働きかけたか	防災教育活動の場の提供をお願いし、快く迎えていただきました。 都内の小中学校に全都発送で手紙を送り、返事を頂いたことや、防災教育以外の WASEND の活動で知り合った方々から紹介などを通して。
	結果	①都内での活動の充実、都内以外での活動の実施。 ②インドネシアでの活動の充実 ③早稲田の地域での活動
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	①世田谷区砧図書館からすの会さん、横浜市児童相談所吉岡さん新井さん、横須賀米軍基地、板橋区町内会 ②インドネシア（メダン・パダン・バリアマン・パダン・ジョグジャカルタ州知事） ③早稲田商店会、まっちワーク、理工学部、早稲田大学インキュベーションセンター渡辺さん
	どのように働きかけたか	主に手紙やメール。電話やお会いした時に直接交渉など。 ①活動の場をお願い。 ②学校の先生方に事前に訪問日時を打診し、生徒をまとめてもらう。現地現場のコーディネートへの依頼。 ③理工学部と商店会が防災を通して一体化できるような活動の提案。理工学部内での避難訓練の実施。
	結果	①目標にしていた月に1度の活動はほぼ達成できた。 ②現地で多くの関係者、先生方に協力頂いて、より充実した活動を行えた。 ③戸塚第一中学校での防災キャンプ、エコステーションでの地域活動に参加。大学構内で地域の方の防災本販売を商店会の方々と行うことで交流が深まった。今後も様々な形で関係作りをすることで、地域の中に入り込んだ防災活動を行う。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	戸塚第一中学校久保さん、大分県社会福祉協議会村野さん、東京ガス秦さん、ロータリークラブ川口さん志村さん、安田不動産深澤さん、古澤さん、谷沢製作所加藤さん、清水建設久保さん、墨田区立八広小学校 PTA 金井さん、他。
	どのように働きかけたか	主に手紙やメール。電話やお会いした時に直接交渉など。 学生にできることは、地道にネットワークを広げることだと考えていたので、働きかけは単純。
	結果	地域の新聞に取り上げられた。 励ましの言葉をかけていただき、保護者向けの活動も依頼された。 地域での活動に参加していただいた
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	パソコンやプロジェクターなどが準備していただける時以外は、機材教材は自分たちで持ち込む。連携団体とお互い何を準備するか話し合いを行って用意するものを決めた。

	入手先・入手方法	自分達で用意できるもの。 教材についても、大学の公認サークルとして補助金をいただいたのでその範囲内で納める努力をした。
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	教室内において、授業の進行をしやすい機材教材を選んだ。その場で不測の事態にも対応しやすい。
参加者の募集	募集方法	ポスター、HP、手紙、メール、呼び込み。 校外での活動においては、連携グループにお任せすることが多い。
	募集期間	通年
	参加予想人数	30 から 40 名
	実際の参加人数	10 ~ 200 名
	募集方法の成功点	構内での活動においては、地域の小中学校に案内を配布することで参加を呼びかけた。また、大学内での行事などを利用することで、より多くの人に参加してもらう機会を作った。 全都発送によりつながりのない学校の先生方と連絡し、活動を実現できた
	募集方法の失敗点	連携団体にお任せすることで、予想外の人数になることもあった。 学内の活動においては、事前に人数を把握できず当日人数制限を行うことになってしまった。
準備で苦労した点・工夫した点	①対象が小中学生なので、言葉よりも写真や映像を多く用いたこと。 体と頭で汗をかく授業をおこなうため、教え続けるのではなく、クイズや問題形式で ②インドネシア語教材と活動の発展、現地では避難訓練という概念がなく日本流のものを紹介すると同時に現地学生とインドネシアにあった形の避難訓練を考案し実現した。日本形式をそのまま海外に持ち込むのは難しい。地域や文化にあった仕組みづくりを行った。また、KOGAMI と UGM (インドネシアでも異なる地域のグループ) を自分たちの活動を通して結びつけることで、今後のインドネシアでの防災教育を彼らが率先していけるようなネットワークを広げた。*インドネシアでは防災教育を行う団体には国の許可が必要で、風習・金銭面上活動が制限されていた。しかし、私たちが日本から活動を行い続けていることで、規制緩和が進み KOGAMI.UGM の活動も活発化してきている。 ③地域の中に入り込むためには地域の信頼を得ることが先決で、現状ではこの段階から抜けだせずにいる。 学内の活動で開かれた理工学部をアピールして防災にかかわらず地域の活動に取り組んでいる。	

#### IV タイムスケジュール (プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。)

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月			
12月	チャレンジプラン立案計画		

2006 1月			世田谷区砧図書館
2月		インドネシアでの活動に向け教材などの準備 日程打ち合わせ 葛西中学校での発表練習	東京都江戸川区立葛西 中学校
3月	新歓活動の準備企画	新歓活動に向け、ピラなどを準備	インドネシア（メダン・ パダン・パリアマン）
4月		新入生に披露する空き缶コンロなどの準備	新入生向け防災教育活 動
5月	横浜市児童相談所の企画立ち上 げ	インタラクティブ用の資料ペアポ作り。 児童相談所への連絡	インタラクティブ年に大 会に向けて（in 堀越高 校）
6月		横浜市児童相談所での活動に向け発表練習 横須賀市消防局担当者との連絡	
7月	インドネシアでの活動を企画 八王子恩方中学校での企画立ち 上げ 墨田区での企画立ち上げ	ユニラプでの発表資料作成 横須賀市発表ペアポを作成	横浜市児童相談所
8月	大田区での企画立ち上げ	インドネシアでの活動に向け教材などを準備 大分県での活動に向け現地との連絡、発表パ アポの作成、練習 深川第5中学校での打ち合わせ・準備	横須賀米軍基地「日米防 火体験ツアー」に参加 早稲田大学オープンキ ャンパス（ユニラプ） 防災キャンプ インタラクティブ年次大 会本番（立教大学） 東京都江東区立深川第 5中学校 東京都主催防災展
9月		帰国後、防災フェスティバルでの発表ペアポ を作成、練習、打ち合わせ 八王子音方中学校との連絡、「大ちゃんの被災 体験記」づくり、防災フェスティバルへの準備	インドネシア（パダン・ ジョグジャカルタ） 大分県大分市立西の代 小学校 防災フェスティバル（滋賀 県）
10月		大田区での活動に向けて発表ペアポ作成 墨田区担当者との打ち合わせと発表ペアポの 作成 理工展に向けての準備	東京都八王子市立恩方 中学校 エコステ
11月	2007年2月に川崎市生田中学校 での活動を企画	大田区墨田区の活動に向け準備	徳島県由岐町を訪問 早稲田大学理工展 東京都大田区立開桜小 学校 東京都墨田区産学官連 携フェスティバル 板橋区町内会防災イベ ント
12月		災害メモリアル神戸、舞子高校でのイベント 参加に向け準備、連絡	災害メモリアル神戸事 前授業
2007 1月		早稲田商店会の方と防災の本販売に向け打ち 合わせ	震災メモリアル神戸 兵庫県立舞子高校 早稲田大学内で防災の 本を販売

## V実践の詳細 【B. イベント1】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動
実施日	2006年1月7日	2006年2月19～21日	2006年3月26～4月1日	2006年4月
所要時間	45分×2	45分×12	45分×4×5日	45分
達成目標	子どもたちに防災について勉強してもらおう	中学生に液状化現象について学んでもらう 空き缶でコンロを作成する	インドネシアの子どもたちに地震津波について学んでもらう。現地の学生と協力体制を作る。	新入生を WASEND に参加 空き缶コンロ作り
生成物		アンケート	インドネシア学生団体との 協定書	
進め方 (箇条書き)	子どもたちにパアポで地震について教える 対処法などをマイ防災ブックに書き込んでもらう	パアポで液状化の授業を行う。 空き缶コンロも生徒の手で作成	パワポで子どもたちに授業 現地の学生も参加してもらう	新入生に WASEND を紹介 空き缶コンロで豚汁などを作る
ツール (特別に用意したもの)	マイ防災ブック パワーポイント資料	パワーポイント資料 液状化実験装置	パワーポイント資料	パワーポイント資料 空き缶コンロ
場所	世田谷区砧図書館	東京都江戸川区立葛西中学校	インドネシアスマトラ島パ ダンメダン	早稲田大学理工学部

## V実践の詳細 【B. イベント2】(短期集中的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動
実施日	2006年5月	2006年7月1日	2006年8月1日	2006年8月19日
所要時間	45分×2	45分	45分	45分
達成目標	インターアクト部高校生に年次大会に向け、防災の知識を身に付けてもらう	児童相談所の子どもたちに地震についての知識をつけてもらう	日本人と基地内のアメリカ人の子どもたちに防災の知識をつけてもらう	早稲田まっちワークサークルの防災キャンプの視察と今後の連携点を見出す。
生成物				
進め方 (箇条書き)	高校生にパワポで首都圏直下地震についての授業 災害救援ボランティアによる、無線機AEDの指導と実践練習	パワポで地震や津波についての授業 津波の劇を演じる	消防局主催の体験ツアーに参加 消防局で日米の子どもたちに授業	まっちワーク防災キャンプに子どもたちと参加 WASENDとして何ができるかを考え話し合い。
ツール (特別に用意したもの)	パワーポイント資料	劇用の大道具	2ヶ国語パワーポイント資料	
場所	東京都堀越高校	横浜市児童相談所		東京都新宿区戸塚第一小学校

## V実践の詳細 【B. イベント3】(短期集中的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動
実施日	2006年8月21日	2006年8月30日	2006年9月3～10日	2006年9月6～8日
所要時間	45分×2	45分×5	45分×4×6日	45分
達成目標	東京都主催の防災展に出席し一般の方に備えの重要性を感じてもらう	中学生に液状化について学んでもらう。 空き缶でご飯を炊き試食	インドネシアの子どもたちに地震津波の知識をつけてもらう。現地の学生との連携を図る	小学生に災害と環境の関連性を学んでもらう 空き瓶で非常用ランプ作り
生成物			インドネシア学生団体との協定書	
進め方 (箇条書き)	パワーポイントで首都圏直下地震についての授業	パワーポイントで液状化の授業 空き缶でご飯を炊いて試食	パワーポイントで防災についての授業 日本式の避難訓練を現地の学生と実施 生徒たちで防災地図作り	体育館で小学生に授業を行う 空き瓶でランプ作り
ツール (特別に用意したもの)	パワーポイント資料	パワーポイント資料	2ヶ国語パワーポイント資料 避難訓練マニュアル	パワーポイント資料
場所	東京都新宿駅西口広場	東京都江東区立深川第5中学校	インドネシア・メダンバダン ジョグジャカルタ	大分県大分市立西の台小学校

## V実践の詳細 【B. イベント4】(短期集中的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	防災フェスティバル	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 理工展参加
実施日	2006年9月23日	2006年10月13日	2006年10月	2006年11月3～5日
所要時間	45分×2	45分×5	45分×6日	45分×15
達成目標	防災フェスティバルに参加しこれまでの活動などについて講演	中学生に帰宅困難者について学んでもらう。	事故の絶えない実験棟での避難訓練を実施	理工展来場者に WASEND の活動について紹介
生成物				
進め方 (箇条書き)	講演	パワーポイントで地震や帰宅困難者についての授業	事前に避難訓練の実施を呼びかけ	来場者に WASEND や災害についての説明
ツール (特別に用意したもの)	パワーポイント資料	パワーポイント資料		パワーポイント資料 写真 パネル スライド
場所	滋賀県	東京都八王子市立恩方中学校	早稲田大学理工学部	早稲田大学理工学部

## V実践の詳細 【B. イベント5】(短期集中的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	WASEND 交流活動	WASEND 防災教育活動	WASEND 防災教育活動	災害メモリアル神戸
実施日	2006年11月1～3日	2006年11月19日	2006年11月26日	2007年1月13日
所要時間	45分×2	45分×2	45分×3	45分×3
達成目標	徳島県由岐町を訪問 地元の中学生との交流 WASENDの紹介と授業	墨田区の小学生親子に地震 や防災についての授業	小学生に地震や津波につい ての授業と非常用ランプ作 り	海外での活動経験を来場者 に伝え、これからの展望を探 る
生成物				
進め方 (箇条書き)	講堂で地元の中学生に授業 地元のイベントに参加	パワーポイントで地震や防 災対策についての授業 マイ防災ブックを配布し子 どもたちへ書き込んでもら う	パワーポイントで地震津波 についての授業 参加者全員でランプ作り	兵庫県舞子高校の諏訪先生 及び防災教育活動を海外で 行った学生3人がパネルデ ィスカッション
ツール (特別に用意した もの)	パワーポイント資料	パワーポイント資料 大ちゃんの被災体験記 マイ防災ブック	パワーポイント資料	パワーポイント資料 子供達の感想文
場所	徳島県由岐町	東京都墨田区産学官連携ブ ラザ	東京都大田区立開桜小学校	人と防災未来センター

## V実践の詳細 【B. イベント6】(短期集中的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	震災メモリアル神戸	商店街との連携企画	ユニラブ	災害メモリアル神戸事前学習
実施日	2007年1月17日	2007年1月17日	2006年8月3日	2006年12月8日
所要時間	45分×2	45分×2	45分×2	45分×1
達成目標	海外活動を日本に還元する考えを広く理解してもらう	WASEND の紹介ビラの配布と防災の本を販売	地域の小学生と保護者に液状化の勉強をしてもらい交流を図る	子供達に防災、特に命の大切さについて伝え、感想文を書いてもらう。
生成物				中学生の感想文
進め方 (箇条書き)	分科会で海外活動をどのように還元するかを発表	早稲田商店街の方と合同で商店会長著の防災関連の書籍を販売	研究室のプレゼンのあとWASEND が災害について授業をし液状化実験を行う	パワーポイントで国内外での防災活動を紹介 インドネシアでの津波体験談を伝える
ツール (特別に用意したもの)	パワーポイント資料	書籍「自身で人を殺すな」 講談社	パワーポイントファイル 液状化実験装置	パワーポイント資料 インドネシアスマトラ沖地震における津波体験談
場所	兵庫県立舞子高等学校	早稲田大学西早稲田キャンパス	早稲田大学理工学部	人と防災未来センター

## VI実践後

<p>参加者へのアンケート結果</p>	<p>液状化の映像を見てびっくりした 両親にも今日学んだことを伝えたい もっと見たかった 家に帰ってチェックしたいです 防災について考えるきっかけになった</p>	
<p>成果として得たこと</p>	<p>子供たちは映像や画像に興味を示すので、これらを今後も活用し必要性。 単に知識を伝えるだけではなく、防災や災害に対する「考え方」も身につけられるきっかけともなるようにしていく方向性が見えてきた 国内や海外で小さいながらもネットワーク作りができた</p>	
<p>成果物</p>	<p>地震災害防災紹介概要パワーポイント マイ防災ブック 大ちゃんの被災体験記 WASEND=KOGAMI=UGM 協定書 報告書 新聞掲載記事</p>	
<p>広報方法</p>	<p>広報した先</p>	<p>朝日新聞 早稲田大学理工リエゾンオフィス</p>
	<p>広報の方法</p>	<p>活動を報告 関係者に紹介してもらった</p>
	<p>取材にきたマスコミ</p>	<p>季刊みらい編集大沼さん 毎日新聞 朝日新聞 読売新聞 産経新聞 神戸新聞 東京新聞</p>
	<p>広報された内容(掲載された記事・番組等)</p>	<p>2007年1月17日朝日新聞に活動の概要が掲載された 2007年1月14日、神戸新聞にWASENDメンバー参加の防災イベントが取り上げられた 2006年4月1日、早稲田大学と京都大学協定の総長挨拶で、京大との連携した海外での防災活動について取り上げられた。</p>
	<p>成功点</p>	<p>新聞に取り上げられることで WASEND の活動を広く知ってもらえるきっかけとなった。</p>
	<p>失敗点</p>	<p>もっと広報の範囲を広げてよかったと感じる</p>
<p>全体の感想と反省・課題</p>	<p>学生に対する風当たりの強さと冷たさを毎回のよう感じた。学生であることが武器であり弱点でもあった。いかに強みを生かすかに心がけた。メールだけでなく実際に足を運んで活動先を探した。また、学生のつながりから、様々なグループに出会い情報交換などを行い、共に活動をすることでいい刺激になり勉強になった。 WASEND は学生サークルなので、必ずしも全員が効率的に動いているわけではなく、安定感に欠ける。また、試験期間や帰郷、週活シーズンには活動もままならなくなるのが現状である。なので、まず第1に息の長い活動が課題に挙げられる。①②国内外問わず防災教育出前教室を継続的に行うこと。2007年3月にはインドネシアで積極的な活動をしていた現地の学生を日本に招き、防災センターや日本の防災教育の現場を見てもらいたいと考えている。③まだ早稲田の地域内での防災教育出前授業は行えていないが、焦らずに WASEND と地域の信頼関係を築き上げ、まちで防災教育とそのシステムの定着をしていきたい。また活動を通して新たな教材作りもチャレンジしていかなければならない。</p>	

今後の予定	来年度以降の進め方	来年度も都内の小・中学校を中心に防災教育活動を進めていきたい。 また今後、早稲田商店街を中心とした地域での継続性のある活動や、大学と連携をとりながらより意義のある防災教育のあり方を模索していきたい。 災害だけでなく危機管理の本質も勉強していきたい 国境なき技師団や京大防災教育の会と協力・連携し、教材を作成したい。
	是非実施してみたい 取り組み	防災活動を行っている他団体との合同活動。 防災心理学等より先端の情報収集、および本当に伝えるべき内容の厳選とそれをいかに記憶に残し、有事の際に使える知識として伝えていくか また将来的に先生になる者（教育学部の学生）に対する活動参加への呼びかけ
自由記述	<p>1年間を通して多くの人々に防災教育を行ってきた。 やってきた出前教室の一つ一つは、意義や意味のある活動であったように思う。 しかし、活動を通して「継続性」という面で疑問が残った。</p> <p>活動に行った所の子ども達に対して何らかの影響を与えることはできたかも知れないが、この活動を行ったことで、今後どれ程防災に対する意識が変わるだろうかと考えたとき、ひょっとしたら一カ月後には、もう忘れてしまっているかも知れない、一過性のもので終わってしまっているかもしれないと感じることがあった。</p> <p>もしかしたら、一ヶ月間防災の意識を高められることだけでもすごいことなのかもしれないが、継続性という課題が残ったというのは確かな事実のように思う。 しかし毎日毎日、防災、防災と耳が痛くなるほど言ったところで逆効果であるのは自明である。だからこそ、「楽しく学ぶ」ことで印象に残るようにと工夫をしてきたワケであるが、まだまだ本来の目的（防災意識の向上）を達成するほどにまでは至っていないと感じた。</p> <p>だからこそ、今後はこの点を考慮した防災教育、また定期的に行いやすい地域を対象に防災教育活動を行っていきたいと考えている。</p> <p>また教育学部の学生に活動の参加を呼びかけていくことで、将来学校の先生になった時防災教育をおこなうことができれば、長い目で見た「防災の輪を広げる」というWASENDの目的を達成しうると思う。</p> <p>それにはまず教育学部の学生が、教科の教授法や授業計画の立て方とは別に防災教育を考える必要性の意味づけを強固にしていく必要があるように感じている。</p> <p>ただ単に「大切だから」だけでは、人はついてこないように思う。 それが命にかかわることで、差し迫った危険性がでてこないと実際にはなかなか行動には踏み出さない。</p> <p>防災に人を主体的に参加させていく（防災の輪を広げる）ためには根本的なところの意味づけをはっきりさせていく必要があるのかもしれない。</p> <p>今後WASENDは基本的な目的（楽しい防災教育・防災の輪を広げる）を遵守しつつも、ただやるだけではなく、改善点や考慮すべき点も活動の中に還元しつつ、防災教育のあり方を模索していけたらと思う。</p>	